

明治四十一年十月廿七日發
主務政務局

附屬
第一課

第
門

明治四十一年十月廿七日
在芝罘領事館事務代理
外務書記生 川口千鶴

三三

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

山東雜信進達件

當管内發行新聞紙其他情報
依別紙山東雜信及進達件教具

在芝罘日本領事館

(送戸永英三前書)

REEL No. 1-0748

0596

山東雜信

獨乙新銀貨

八月二十五日獨乙本國ヲ發シ目下輸送中ニ新
小銀貨ノ木版圖ニ在リ如シ青嶋ニ於テ用ヒトスモノ

Das neue Kleingeld ist am 25. August von
Deutschland abgegangen und wird in diesen Tagen
hier erwartet. Untenstehender Holzschnitt gibt ein
Bild von dem neuen Geld.



在芝罘日本領事館

濟南府ノ電話

濟南府ニテ愈々電話架設ヲ實行セトシ先
二百個ヲ順備シ漸次擴張スルノ計畫ニシテ是レニ
要スル金額、獨乙商人ノ計算ニ依テ一萬圓
ヲ要セカ後々当地電報局總辦許觀察、
知シ上海某洋人會社ノ計算ニ依テ七千圓ニテ
十分ナリト云フニ依テ巡檢ノ許可ヲ得テ勸業
公所及高埠公所ニテ各三千五百圓宛ノ
負債ヲ起シ愈々日會社ヲ材料ヲ購買シ
ニ事ニ着手スルコトナリ

濟南府ノ山東鐵道

濟南府ノ山東鐵道會社停車場ト濰口間ノ距
高、十清里ニシテ今天津浦鐵道會社ニテハ

(附) 本報三日前

灤口：鐵橋ヲ架設ス。就キ其材料
運搬：大ニ不便ヲ感ズ所アリ已ニ兩地間
鐵路敷設中ナリ。日漸ク峻工シ其
車輛ハ先ニ山東鐵道會社ノ用ヒテ同鐵道
材料其他一般ノ貨物ヲ運搬シ其收入
六分、四分、津浦鐵路會社ニ納メ六分、二分
山東鐵道會社ニ取ル事。決定シ不日開通
ヲ見ニシム可シ

山東礦山會社ノ近況

山東礦山會社ニテ報告セシ石炭採掘
高：千九百〇七年ニ一四五、〇〇〇トシテ千九百〇八年
ニ一三三、〇〇〇トナリ坊子鑛山毎日採掘高
約千トシテ大部ハ山東省ノ内地ニ供給セシ

在芝罘日本領事館

博山區域ニテ、フシヤ坑ノ設備モ先成セシ千九
百九年ノ初期ニ於テ毎日採掘高三百五十ト至
四百トニシテ石炭ノ性質ハ良好。カレテ炭ニ比較
スニ云々可ク特流船ノ燃料ニ適シ東洋於テ
獨ニ軍艦ハ定期ニ石炭契約ヲ為シ自由
博山坑ニ於テハ毎年採掘高一四五、〇〇〇トシテ
車ニ其地ニ於テ販賣セシ
濰縣炭坑ヲ採掘セシ。日里約二五、〇〇〇トシテ
運河ニテ南方又ハ西方ニ運搬セラレ
青嶋ニ於テハニツク小貨便使用ノ規則
保護領法ヲ十五條ニ基キ并ニ千八百九十年
四月二十七日附ノ獨逸帝國把密院ノ訓令ニ據
ニツク小貨便使用ヲ左ノ如ク定ム

(四ノ水英三商會)

第一条、膠州保護領、政府鑄造ノニッケル貨

墨其西哥弗一圓ノ十分一及廿分ノ一

呼價ヲ有スルヲ使用ス

第二条、ニッケル貨ノ一面、獨逸帝國就寫

章及錨ト獨文字、以テ獨逸ノ膠州

并ニ價格年号ヲ標記シ他面、清文

以テ中央ニ大德國寶ト縁ニ青嶋、

文字ノ價格ヲ印刻ス

第三条、ニッケル貨ノ墨銀價格ノ三弗迄、

對シ全般ノ仕掛并ニ官署ノ納金取

引、通用スルトス

第四条、總督府會計部ニ於テノ數量ニ係テ

ニッケル貨ヲ受入ル可シ且フニッケル貨ヲ以テ

在芝罘日本領事館

墨銀ト兌換スル事ヲ得、

第五条、小貨ノ穿孔アリ或ハ通用中自然ノ

磨滅ニテアラザル毀損アルモノ或ハ磨造ニ係

ルモノ受入及兌換ヲ為サズ

第六条、總督、清國鑄造及香港鑄造

五仙十仙及ニニ仙小銀貨ノ行使ヲ制限シ

差シテ林示制スル時ハ布告以テ定ム

千九百〇七年十月十一日

青嶋總督

全權代理 マイエル・ワルデック

(青島水谷三商店)

手付

明治三十二年十月二十六日 芝罘 芝罘日本領事館

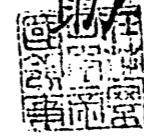
公信第二六號

受第一九七九一號

明治三十二年十月二十六日

在芝罘領事館事務代理

外務書記生 川口千鶴之助



外務大臣伯島時小村壽太郎殿

舟

山東雜信送達三件

当管内発行各種新聞紙其他人情報

二号別紙山東雜信及送達在間生查

閱覧上於教具

在芝罘日本領事館

第 21 門

(送付永興三商店)

甘肅運、兩庫、検査

山東巡按使甘肅運、兩司、命、庫中、存
現金の詳細報告せし、親、庫、至り、検査
る所、見、布政司、庫、毎年、収入、五十六萬
六千七百四十一兩九錢六分一厘、其中、青
洲、滿人、兵、官、貸、出、金、額、十八萬一千
九百六十九兩六錢六分六厘、其、毎、年、存、銀
三十八萬四千七百七十二兩二錢九分五厘、又、親、
塩運司、倉庫、至り、検査、る、收入、三十三萬
八千三百六十二兩四錢三分、内、文、出、三、萬、八、百、九、十、七、兩
及、津浦鐵路、株券、四千兩、控除、る、現金、
二十九萬二千四百六十五兩四錢二分四釐、
財政、状態、好、良、也、已、中央、政府、報告、せり

在芝罘日本領事館

山東鉄道

千九百〇八年、年度、旅客、運送、数、八、三、四、六、八、六
人、ミ、テ、千九百〇七年、年度、比較、テ、六、一、三、四、一、人、
減少、示、す、其、理由、維、縣、濟南、地方、収、獲、
不良、結果、ナ、リ、保護、領、ヲ、文、那、地方、向、テ、
運、搬、せ、し、ハ、一、三、三、五、五、人、ミ、テ、内、地、
五、六、一、人、ナ、リ

千九百〇七年、年度、比較、テ、六、一、三、四、一、人、増加、
貨物、炭、蓄、運、搬、千九百〇八年、於、テ、四、七、〇、六、八、四、噸、
ミ、テ、
麥、稈、真、田、業、ノ、在、展

黃縣、於、先、麥、稈、公司、去、年、ノ、創、立、
益、擴張、シ、テ、教、師、ノ、聘、
授、予、傍、ラ、原、料、買、入、
及、び、制、品、賣、入、
及、び、制、品、賣、入、

(以下、水、英、三、商、會、報、)

抄のよりの
舟の漕ぎ

ヲ監督せしめ此校舎ヲ卒業シタル者巴ニ
多数ニシテ皆麦稈細工ヲ専業トシテ尽碎
シツアリ目下更ニ女子、婦人ニ教授ス可キ
企畫ヲ成キ修業期ニ二月ニシテ二名ノ
女教師ハ既ニ招聘セラレツアリ、

青嶋大学開校

青嶋特別事問答者ハ愈九月十二日開校
北京学部ノ李君、蕭觀炎、商榷
局總辦朱觀炎等青嶋ニ至リ入り生員
九十餘名ナリ

牛糞ヲ設ケントス

芝罘ノ牛糞近來發達シテ未シクテ以テ未港ノ
牛一匹ヨリ一田五十美花ヲ徴收レ以テ近來
在芝罘日本領事館

不足勝テ敬言炭奈貴其他ノ用ニ用ヒト
ストナリ、

汽船會社競争

目下山東苦力ノ歸來スモノ多ク当地、安東
縣、大連間ニ未カ競争ヲ見スト莫モ当地
沙河子間格々ニ數日ノ前ヨリ競争初リ
平常ニ於テ一弗半程ノ船賃ハ一弗減ト莫
五十美ニシラントスハノ模標アリ、

宮口、龍口間ノ汽船會社設立セラレシ
トス

宮口ノ商人中ニ山東人多数ヲ占メ且ツ兩地
間ニ山東苦力ノ往來頻繁ニテ以テ現時ニ
了ス英商が温洲、芝罘、牛莊、怡生、四艘

(神戸永英三商店)

ヲ以テ兩地間ノ航海ニ從事スルモ彼等ハ
山東苦力ヲ雇待テ事甚ク一方於テハ
利権ノ外溢ヲ防カントシ一會社ヲ組織シ
以テ外人ニ當ラントストキ、是レ執事巴ニ十月
十一日會合シテ相決ス所アリ、

山東礦業會社

九月二十日柏林ニ於テ該會ヲ開ク千九百零九年
より零九年ニ涉ル官業報告年度ノ
終末即チ四月一日ニ至ル決算ハ四十四萬三千
三百五十三麻克ノ欠損ヲ呈シ(前年及ニ在リ四萬
六千零六十六麻克ノ剩餘)本年三月末ニ
於テ預備資金ハ十萬三千五百六十四麻克
ナリ官業報告據ル石炭ノ採掘高ハ

在芝罘日本領事館

三十二萬二千六百五十三噸増進ナリ(前年及ハ
十九萬零二百六十三噸)坊子、岔山、兩坑ノ設備ハ
既ニ完了ナリ、將來採炭高ノ増進ニ期シテ
待テ可レ坊子炭、岔山炭ノ春季ニ於テ需要ハ
採掘高ニ超過シ、經營ノ進捗ヲ表示スルニ
均ニ財政ニ關シテ成績ノ不良ナル坊子炭坑ニ
支出シタル金額及ヒ火厄ヲ生シタル被害ヲ行ノ
修理ノ為メ臨時ノ支出アリ、爲メ内地向賣買
概ニ從來專ラ銅貨及支那民業銀行ノ銀
票ヲ以テ計算スルハ該報告年度ニ於テ銅貨
ノ價格大ニ下落シタルニ因リ會社ノ賣上金ニ
影響ヲ来シタル坊子坑作業ニ要シテ諸材料ノ
高價ニテリタルガ爲メナリ

(附片、本表三箇月分)

山東鐵道會社新造小洋鐵行使ス
山東鐵道會社於西曆十月一日清曆
九月十九日青島大碼頭四方滄口
等ノ停車場ニ於テハ切符ヲ四具ニ示シ場合
大洋鐵一元ニ及バカンモハ彼政府新造ノ小洋
鐵ヲ用ヘ、之ヲ有セカントキハ大洋鐵ヲ用テ事ヲ
得但し獨ニ政府以外ノ小洋鐵ハ一切受取ラズ

在芝罘日本領事館

(印)永英三商印

郵政省 郵務局

公信第一九〇

明治四十二年十月五日

受第二〇三〇三號

在芝罘領事館事務代理
外務書記生 川口千鶴 之助

外務大臣伯爵小村壽太郎殿

山東雜信送達件
別紙山東雜信及送達件在東在査閱
相成度は敬具

在芝罘日本領事館

(信片水英三商店)

山東雜信

山東雜信

2/19

白

孫巡檢ノ病氣

孫巡檢ハ詔議司閏會後発病昏睡、
有様ニ墜リ伏態頗ル重ト傳フ

行聖王公及心王侍郎

行聖王公ハ過日当地漢業公司總辦王

侍郎ト日乘ト青嶋ヲ来リ王侍郎ハ

当地ニ於テ下船シ行聖王公ハ該船ニ天津ニ

向リ是レ皇太后奉接ノ式ニ列セカ為メ

山甘欄ノ保管料

目下甘欄河地方ヨリ山甘欄ノ入港ノ期ニ

多ク毎航輸入ノ見込有ルカ之レカ看守

トシテ一組合ヲ設ケ一籠ニ付キ十銭先ノ

在芝罘日本領事館

保管料ヲ取リテ保管セシメテアリシモ小賊ノ

為メニ屢々偷竊セシレ之カ防備ニ困難ヲ

来レワ、アツカ巡檢官局於テモ經費ニ不足ヲ

感レワ、アツカ巡檢官局於テモ經費ニ不足ヲ

トレ巡檢官局ニ於テモ之レカ保管ニ任ズルヲ

之ニ就キテ巡檢官局於テハ收入得存主於テ

該山甘欄ノ安全ヲ得大ニ喜ビツマス

青島州人民ノ津浦鉄道本線

敷設運動

津浦鉄道豫定線ニテ本河線路ハ青島

州ヲ通過セズ一文線ヲ以テ内所ヲ聯絡セ

トスルヲ以テ青島州人民ハ之レニ滿意セズ是非

津浦線路中ノ一驛ニシテ已ニ商地有力家

(神戸赤松三商會)

ノ奔走走る事半歳ニ及ビモ効果甚ナキヲ以テ数日前所謂所期成同盟人會ヲ組織シ且ツ大會ヲ開ラキ集る者三千人決議シテ曰ク津浦鐵道ハ四省商業ノ生命ナリ南方ヲ北方ニ繋グ脈管ナリ而シテ濟南ハ心脈ニ當リリ着レ夫レ本線ノ濟南ヲ通過スナクハ濟南ハ關係上意義上滅亡スルモノリ吾黨茲ニ一決慨カ線路変更ノ目的ヲ達セシガ爲メハ凡テノ手段ヲ執ラント欲スト期クレテ二名ノ委員ヲ選ビ天津各南系ノ有志家ト交渉セシメ更ラニ北京ニテラントストシテ

烟濰鐵道株券募集人會社設立

在芝罘日本領事館

烟台ニ濰縣ニ至ル鐵道ヲ開辦セントシ劉萬二人先ア各地ニ表題名ノ人會社ヲ設立シ株主ヲ募集ストシテ

(神戸水産三商會)

明治四十三年一月四日接受
警政務局

公債第一五八

受策 八〇 號

附屬書類第一〇〇

山東雜件

通告

明治四十三年十二月十七日

在芝罘領事館
副領事 土谷久米藏

外務大臣伯島時村壽太郎殿

山東雜信進達一件

別紙 山東雜信一部及進達書
系在直閱相成度在敬具

在芝罘日本領事館

第 21 門

(砂戸永英三商印)

膠州灣總督末青期
 膠州灣總督「ト」ト「中」將ハ本國ニ
 帰省中、其儘他ニ轉任ノ噂アリモ
 同中將ハ末春早ニ西伯利亞ヲ經テ
 再々青嶋ニ帰任スル旨ナリト云フ

山東鐵道會社

今會社ノ營業成績ハ昨年度比
 著シキ優劣ナキカ如ク目今輸送力ハ旅
 客一日平均二千三百餘貨物ハ一千
 七、八、九、〇ト云フ

漢堡亞米利亞汽船會社

在芝罘日本領事館

獨乙、青嶋間ノ新航路

漢堡亞米利亞汽船會社ハ從來清
 國ト歐洲間ノ運送ハ上海ヲ以テ接統美
 トナレ北清航路ハ上海ヨリ青嶋、芝罘、
 經テ天津ニ向ケ一週二回先定期船ヲ
 發シテ、今一回歐洲航行ノ汽船ヲ青
 嶋迄回航セシム事、決シ既ニ本月ヨリ
 実行ス可ト云フ尚ホ同會社北清航路
 船、西江、クライトク、二艘ハ天津結氷
 ノ為メ今十二月初ヨリ其航路ヲ上海
 青嶋、芝罘、大連間ニ變更セリ

青嶋屠牛場

(青嶋永興三商店)

青嶋屠牛場於屠殺せらるる獸肉
 現今其一部ハ輸出見ん玉りんか
 十月中ノ屠殺數ハ九ノ如レ
 牝牛 三百二十一頭
 牝牛 百〇七頭
 犢 百四十八
 羊 百五十七
 牝豚 六百四十一
 牝豚 六

卷烟草ノ需要

山東省於卷烟草ノ需要ハ年々増
 加ヲ示レ来リ其原因ハ阿片吸煙代
 ハり品トシテ需要セらるモ凡バウ威海衛
 於感英人煙草會社製造ノ紙
 卷烟草ノ如き青嶋於一ヶ月ノ賣上
 價高ハ百箱ニシテ其價十二萬弗ニ達ス
 ト云フ

在芝罘日本領事館

芝罘於先日本船舶

芝罘港ハ安東縣大連、牛莊等
 販路ノ有ル西洋貨物運搬ノ集散
 地トシテ位置ヲ失ハ殊ニ十月十月ハ東
 苦力ノ歸来スルモノ多ク且又山嶺ノ
 輸入アリテ地船舶業ハ最ニ盛
 ノ極メ從テ日本船舶ノ芝罘及対岸間
 ノ航運業ニ從事スルモノ多ク日ニ十艘
 余(四千五百屯)ノ碇泊船ヲ見
 入り安東、牛莊、浦塩地方結氷爲

四ノ水英三商

大日進丸(二四八七) 洋菜丸(一三三三)
 其他二三艘、外何れも当地より揚子
 日本帰航す

在芝罘日本領事館

(録) 永英三商館